様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　 ５ 月 １７ 日現在

機関番号：１２３０１
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｋ１２４４４

研究課題名（和文）多様な英語なまりに対する聞き取り能力向上のための教材開発

研究課題名（英文）Development of Teaching Materials to Improve Listening Comprehension of Varieties of English Accents

研究代表者
川島　智幸（Kawashima, Tomoyuki）

群馬大学・大学院保健学研究科・准教授

研究者番号：７０７５９０５０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,200,000円

研究成果の概要（和文）：センター試験リスニング問題の音声と非母語話者による再現音声を用い、非母語話者英語の明瞭性を調べた。その結果、20%減速した場合も、30分間吹き込み者の話す英語に触れた場合も、明瞭性に影響しないことが分かった。調査に用いた音声は、オンライン教材『堂々と英語を話すための「本当の英語」リスニング　Listening Practice in Real English』として、https://real-english.health.gunma-u.ac.jp/で公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　日本人英語学習者に多様な英語を聞かせるにあたっては、学習者の耳をどうやって段階的に慣らすか、またいかに学習者が非母語話者や英語なまりに対して偏見を持たないようにするかという2つ課題がある。そこで本研究では、英語の聞き取りやすさ(明瞭性)と学習者の英語なまりに対する態度について研究を進めながら、教材開発を目指した。研究成果は、誰もが利用できる聞き取り教材としてホームページで公開した。

研究成果の概要（英文）：The investigation of the intelligibility of non-native speaker English using the original recordings from the National Center Test listening questions and the reproduced recordings by non-native speakers showed that neither a 20%-reduced speech rate nor a 30-minute exposure to speakers' English leads to greater intelligibility of non-native speaker English. The recordings used for the research are available online at https://real-english.health.gunma-u.ac.jp/ as a resource for English language learning with the title "Listening Practice in Real English."

研究分野：応用言語学

キーワード：多様な英語　非母語話者　なまり　聞き取り　明瞭性　intelligibility　教材開発

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

日本人学習者が聞く英語は極めて限定的で、必ずしも社会の実態を反映していない。高等学校英語教科書指導用 CD 吹き込み者の 9 割は北アメリカ出身者で（Kawashima, 2000 & 2009）、生徒はほとんどアメリカ人やカナダ人声優が話す聞き取りやすい英語のみを耳にしている。英語で意思疎通を図る機会は増えているが、そもそも相手が言うことを理解しなければ会話は成立しない。また、なまりのある英語が分かりづらいからと言って、目の前の相手を避けることはできない。日本貿易振興機構の最近の調査によると、最も多くの日本企業が海外拠点を置く国は中国で、以下アジアを中心とする非英語圏の国が続いている。いわゆる英語圏で上位 10 位に入っているのはアメリカだけである。こうした状況で、様々な英語が飛び交う中でも臆せずに意思疎通をはかることができる、たくましい日本人を育てることが求められている。しかしながら、社会的な必要性が高まっているにもかかわらず、日本では非母語話者の話す英語の聞き取りについての研究はあまり行われていない（Kawashima, 2017）。そこで本研究では、大学入試センター試験リスニングで出題された正答率の高い対話形式の問題を、非母語話者により再現し、話者や話す速さ、話し手の話す英語に対する慣れが明瞭性に及ぼす影響を調べることを計画した。

２．研究の目的

本研究は、先行研究や高校生や大学生を対象に実施する調査結果をもとに、標準的な日本人英語学習者に適した聞き取り教材の開発を目指した。多言語を日常的に耳にする英語学習者は、自然と様々な英語なまりに対する包容力が養われると考えられるが、日本に暮らす学習者にはそのような包容力を養う機会はない。このため本研究では、平均的な日本人英語学習者の耳を多様な英語なまりに段階的に慣らし、学習者が非母語話者の話す英語に偏見を持たないよう配慮した聞き取り教材を開発し、多くの学習者が利用できるようにすることを目的とした。

３．研究の方法

まず、大学入試センター試験のリスニング問題の中から、正答率が高い 50 の対話問題を選び、テスト用音声を非母語話者による録音で再現した。吹き込み者は、英語なまりと出身国、性別のバランスを考慮し決定した。録音は、センター試験で流された音声を聞き練習後に行った。会話の他に自己紹介と出身国における英語の役割、英語の教育事情についてのスピーチも録音した。収録した音声は、音声編集ソフト Audacity を用いて編集し、センター試験で用いられたオリジナル音声、非母語話者による再現音声、発話を 20%減速した再現音声の 3 種類のリスニングテスト用音声を準備した。

次に、完成した音声を用いたリスニングテストを、6 つの学校の高校生と大学生に実施した。この調査では、(1)オリジナル音声と非母語話者による再現音声を用いて、話者の違いが明瞭性に与える影響、(2)元の速さの再現音声と発話を 20%減速した再現音声を用いて、話す速度が明瞭性に及ぼす影響、そして(3)2 回のリスニングテストの間に吹き込み者の話す英語を 30 分間聞く機会を設けることで、吹き込み者の英語に対する慣れが明瞭性に与える影響の 3 つを調べた。

その後調査に用いた音声教材を利用し、オンライン教材を制作した。利用者が、途中で吹き込み者による自己紹介などを聞きながら、やさしい問題から順にリスニング問題に答える構成とした。ホームページ完成後はオンライン教材のチラシを作り、高校生・大学生に配布し、教材の利用を呼びかけた。

４．研究成果

2018 年度は、まず 2010 年から 2018 年に大学入試センター試験で出題されたリスニング問題 225 問（25 問×9 回分）の中から、50 問を選定した。4 つの大問から難易度が低いとされる第 1 問と第 2 問を選び、大手予備校 Z 会が公表した正答率が 85%以上の問題を選んだ。次に、応募のあった大学（院）生、日本語学校生 15 カ国 29 人の中から、英語なまりと性別、出身国のバランスを考慮し、吹き込み者 10 人を選定した。英語なまりの評定は、非英語母語話者との会話経験豊富な 2 人の日本人英語教師が、なまりの強さと英語の明瞭性の観点から行った。その結果吹き込み者は、モンゴル、中国、フィリピン、タイ、マレーシア、インドネシア、ネパール、インド、シリア、ポーランド出身の男女 5 人ずつになった。吹き込み者は、大学入試センター試験で用いられたオリジナル音声を聞きながら練習を行い、その後男女一組で 10 問分の会話を録音した。吹き込み者には、会話の他に自己紹介と出身国における英語教育の状況についても話してもらった。2018 年度は教材づくりと並行して、5 件の学会発表を行い、2 本の論文が学会紀要に掲載された。

2019 年度は、収録した音声とオリジナル音声を Audacity を用いて編集し、3 種類のリスニングテスト用音声を作成した。つまり、センターテスト本試験で使われた北米出身の英語母語話者の音声を、速度や解答のためのポーズの長さを変更せずにつなぎ合わせたオリジナル音声、会話

時間とポーズの長さを可能な限りオリジナル音声に近づけた非英語母語話者による再現音声、発話を 20 パーセント遅くした再現音声の 3 種類である。加えて、吹き込み者の話す英語に慣れるための教材を準備した。教材は、吹き込み者の出身国の場所を地図で確認し、彼らの話す英語の特徴に関する解説を読んだ後で、吹き込み者による自己紹介と出身国の英語教育事情に関する説明を 3 回繰り返して聞く構成とした。この教材は、利用者が 10 人の話す英語を合せて 30 分間聞けるように作成した。その後 6 つの学校の高校生と大学生に、リスニングテストとアンケート調査を実施した。2019 年度はこれらの実験準備や調査と並行し、1 本の学会発表を行い、3 本の論文が学会紀要と国際学術誌に掲載された。

2020 年度は、リスニングテストとアンケート結果の分析、大学生を対象に追加のデータ集めと分析、それらの結果をもとにオンライン教材の制作、広報活動を行った。リスニングテスト結果の分析によると、大学生のデータから母語話者よりも非母語話者の英語の明瞭性が低いことが示された。しかし高校生のデータでは、2 グループ間で 2 つの条件で明瞭性の開きに異なる傾向が見られた。次に、高校生、大学生とも非母語話者の話す英語を 20%遅くしても、元の速さで聞いた場合と比べ明瞭性に変化は見られなかった。さらに、2 回のリスニングテストの間に、10 人の吹き込み者の話す英語を 30 分間聞いたことによる明瞭性への影響は確認できなかった。吹き込み者のペアごとの分析によると、インド人とインドネシア人、ネパール人とシリア人の 2 つのペアの明瞭性が、他の 3 ペアよりも低い傾向があることが分かった。アンケート結果の分析からは、非母語話者の話す英語を肯定的にとらえる生徒・学生が多い中で、一部に不寛容な態度を示す生徒・学生がいることも明らかになった。この調査結果から、英語なまりに対する肯定的な態度を育てる指導の重要性が、改めて確認された。

本研究で準備したリスニング用音声は、大問ごとに易しいものから難しいものに並べ、10 人の録音者の自己紹介と各国での英語学習と英語の利用状況についての紹介と併せて、ホームページで公開した。オンライン教材『堂々と英語を話すための「本当の英語」リスニング Listening Practice in Real English』(https://real-english.health.gunma-u.ac.jp/)公開後、高校を中心に全国 86 校の学校にチラシを送付し、公開から半年後の 2021 年 5 月上旬時点で、世界 22 か国から延べ 3,200 人余りの利用者があった。2020 年度はこれらの活動と併せて、4 本の学会発表を行い、1 本の論文が学会紀要に掲載された。

＜引用文献＞

Kawashima, T. (2000). The effects of exposure to non-native English on learners' attitudes and their perception of English. Unpublished Master thesis. Utsunomiya University.

Kawashima, T. (2009). Current English speaker models in senior high school classrooms. *Asian English Studies, 11,* 25-47.

Kawashima, T. (2017). Effects of speech rate and familiarity on intelligibility of non-native speech for non-native ears. *Asian English Studies, 19,* 34-57.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 Kawashima, T.	４．巻 -
２．論文標題 English use by the heads of state at the United Nations General Assembly	５．発行年 2019年
３．雑誌名 English Today	６．最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/S0266078419000464	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Kawashima, T.	４．巻 21
２．論文標題 An Exploratory Study of Listening Materials to Promote Comprehension for World Englishes	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Asian English Studies	６．最初と最後の頁 38-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50875/asianenglishstudies.21.0_38	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Kawashima, T.	４．巻 3
２．論文標題 Background Research on Developing Teaching Materials for Listening Comprehension in World Englishes	５．発行年 2019年
３．雑誌名 JACET ELF SIG Journal	６．最初と最後の頁 25-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Kawashima, T.	４．巻 20
２．論文標題 A Longitudinal Study of Speakers on CDs for Senior High School English Textbooks in Japan	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Asian English Studies	６．最初と最後の頁 26-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50875/asianenglishstudies.20.0_26	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kawashima, T.	4．巻 6
2．論文標題 Intelligibility of Slowed Speech in Indian English	5．発行年 2019年
3．雑誌名 JACET-KANTO Journal	6．最初と最後の頁 5-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kawashima, T.	4．巻 1
2．論文標題 Effects of Awareness Raising Activities about World Englishes on EFL Learners	5．発行年 2020年
3．雑誌名 OnCUE Journal Special Issue	6．最初と最後の頁 25 - 48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　0件／うち国際学会　6件）

1．発表者名 Kawashima, T.
2．発表標題 Material Development for Listening Comprehension in Global Englishes
3．学会等名 第40回Thailand TESOL-PAC国際学会（国際学会）
4．発表年 2020年

1．発表者名 Kawashima, T.
2．発表標題 How Can We Foster Positive Learner Beliefs about Speaking English?
3．学会等名 第15回CamTESOL 国際学会（国際学会）
4．発表年 2019年

１．発表者名 Kawashima, T.
２．発表標題 Challenges for Using Non-Native Speaker Accents for Listening Practice
３．学会等名 CamTESOL-UECA Regional ELT Research Symposium（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kawashima, T.
２．発表標題 The Research Background of the Development of Teaching Materials to Improve Listening Comprehension of World Englishes
３．学会等名 JACET大学英語教育学会2018年度第2回ELF SIG Meeting
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kawashima, T.
２．発表標題 What is Available and What is Missing in Teaching Materials to Promote Listening Comprehension for World Englishes?
３．学会等名 日本「アジア英語」学会第43回全国大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kawashima, T.
２．発表標題 Student Reaction to Teacher Talks on World Englishes
３．学会等名 JALT全国語学教育学会第25回大学外国語教育研究部会大会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kawashima, T.
２．発表標題 Expectations for Teacher Training in the Teaching of English as a Lingua Franca
３．学会等名 2nd International Conference on the Future of Education（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Kawashima, T.
２．発表標題 Quantifying Difficulty Levels in Listening to Global Englishes for High School and University Students in Japan
３．学会等名 3rd JAAL in JACET
４．発表年 2020年

１．発表者名 Kawashima, T.
２．発表標題 Reviewing the Attitudes of Japanese Learners toward Non-Native English Accents
３．学会等名 日本「アジア英語」学会第46回全国大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kawashima, T.
２．発表標題 Comparing the Difficulty Levels of Listening Comprehension of Native and Non-Native Speaker English
３．学会等名 17th CamTESOL 国際学会（国際学会）
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

オンライン教材 堂々と英語を話すための『本当の英語』リスニング Listening Practice in Real English https://real-english.health.gunma-u.ac.jp/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関